

# 大阪薬科 大学報 74

OSAKA UNIVERSITY OF PHARMACEUTICAL SCIENCES



# C O N T E N T S

|                          |                                                                                    |                                               |
|--------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|
| 特集                       | 「法人合併記念式典・記念祝賀会」のご報告                                                               | …… 3                                          |
|                          | 記念講演 内閣審議官（前国立教育政策研究所所長） 河村 潤子…… 4                                                 |                                               |
|                          | 祝辞 衆議院議員・元文部科学大臣 平野 博文…… 5                                                         |                                               |
|                          | 衆議院議員 大隈 和英…… 5                                                                    |                                               |
|                          | 高槻市長 濱田 剛史…… 5                                                                     |                                               |
| OB・OG訪問<br>（OB・OGの活躍）    | 「外に出よ」世界を知れば財産になる                                                                  | …… 6                                          |
|                          | 大阪大学大学院薬学研究科細胞生理学分野<br>教授 辻川 和丈                                                    |                                               |
| 大阪薬科大学<br>3部長と学生の<br>座談会 | 実り豊かなキャンパスライフのために                                                                  | …… 8                                          |
|                          | 学生部長 教授 春沢 信哉                                                                      |                                               |
|                          | 教務部長 教授 浦田 秀仁                                                                      |                                               |
|                          | キャリアサポート部長 教授 福永理己郎                                                                |                                               |
|                          | 杉町莉世、和田伸也、吉田舞衣、田口真希、廣瀬光之輔、星野直大                                                     |                                               |
| 座談会                      | 高知県多職種地域医療実習を終えて                                                                   | ……12                                          |
|                          | 臨床薬学教育研究センター 教授 中村 敏明<br>艇(たぎし)英彰、山口万穂                                             |                                               |
| 就任の挨拶                    |                                                                                    | …… 13                                         |
|                          | 製剤設計学研究室 助教 内山 博雅                                                                  |                                               |
|                          | 生化学研究室 助教 藤井 俊裕                                                                    |                                               |
|                          | 臨床教育・研究支援課 庄門 大樹                                                                   |                                               |
|                          | 教務課 野村友紀子                                                                          |                                               |
|                          | 総務課 濱田 桂輔                                                                          |                                               |
| 第51回大薬祭「Reborn!!」を終えて    | 大薬祭実行委員長 土屋 侑未……14                                                                 |                                               |
| 三大学医工薬連環<br>科学教育研究機構     | 三大学医工薬連環科学教育研究機構の活動状況（その11）                                                        | ……15                                          |
|                          | 准教授（特任） 銭田 晃一                                                                      |                                               |
| 学生相談室だより                 | キャンペーンしました                                                                         | 学生相談室……15                                     |
| 五大学連携                    | 五大学連携活動状況                                                                          | 五大学連携事業担当 教授 三野 芳紀……16                        |
| 総合科学系の紹介                 | 言語文化学グループ                                                                          | 教授 楠瀬 健昭 准教授 スミス朋子……16                        |
| 事務局だより                   | 総務課……17 施設課……20 教務課……20 入試課……21 臨床教育・研究支援課……22<br>学生課……24 キャリアサポート課……27 図書・情報課……27 |                                               |
| 薬用植物の紹介                  | モモ（バラ科）                                                                            | 薬用植物園長 教授 谷口 雅彦 ……巻末<br>薬用植物園 技術職員 忍穂 陽介 ……巻末 |
| 編集後記                     | 広報委員長 教授 辻坊 裕……巻末                                                                  |                                               |



本学は公益財団法人大学基準協会による2011（平成23）年度認証評価の結果、2012（平成24）年3月9日付で同協会の定める大学基準に適合しているとの認定を受けました。

認定期間：2012（平成24）年4月1日より  
2019（平成31）年3月31日



第51回大薬祭 学生によるライブ風景



## 法人合併記念式典・記念祝賀会

平成 28 年 4 月 1 日、かねて準備を進めていた学校法人大阪医科大学と学校法人大阪薬科大学は晴れて法人合併を果たし、学校法人大阪医科薬科大学が誕生しました。それを記念して、去る 7 月 8 日にホテルグランヴィア大阪において、多数のご来賓をお招きし盛大に「法人合併記念式典・記念祝賀会」を挙行了しました。

当日は、第一部として「記念式典」を、第二部として「記念祝賀会」を開催し、それぞれの会には、両校に関わりの深い行政・団体・近隣大学・取引先関係などのご来賓合わせて 250 名以上の方にお集まり願い、皆様から新たな門出のご祝福を頂きました。

第一部の「記念式典」では、最初に濱岡純治副理事長が、開会の言葉として、両校が今回の法人合併に至るまでの経緯をお話ししました。次に、植木實理事長より、法人合併の御礼を込めて皆様方にご挨拶を申し上げました。

続いて、主たるご来賓の方々をご紹介申し上げ、またご来賓の方々を代表して、衆議院議員・元文部科学大臣の平野博文様、衆議院議員の大隈和英様、高槻市長の濱田剛史様の御三方にご祝辞を頂戴しま



した。御三方からは、今回の法人合併を心からお喜び頂く温かいメッセージをお贈り下さいました。その後、ご祝電の披露を行い、第一部のメインイベントである記念講演会に入りました。

記念講演は、この度の法人合併のきっかけを作って頂き、実現に向けて多大なるご支援を頂戴した内閣審議官（前国立教育政策研究所所長・元私学部長）の河村潤子様、以前より講師をお願いしておりましたところ、快くお引き受け下さり、今回の記念式典に華を添える『新世紀の私学へ—学校法人大阪医科薬科大学の発足に贈る詞—』という演題で、約 40 分にわたりご講演頂きました。これまでの私学

の歴史を概観した上で、21世紀の厳しい経営環境を生き抜き、22世紀に向けて同窓生・地域・国際社会の拠点となる大学へ歩もうとする新法人・新体制へのエールを送る、という趣旨でお話しされ、会場の皆様方も熱い思いと感慨をもって耳を傾けておられ、大変有意義な講演会となりました。

第二部の「記念祝賀会」では、まず植木理事長が、開宴に先立って皆様方に記念式典ご臨席の御礼を申し上げました。続きまして、両学校法人と深い関わりを持ちます各大学関係団体を代表されるご来賓にご祝辞を賜りました。まず最初は日本私立学校振興・共済事業団理事長の河田悌一様、次に日本私立医科大学協会副会長の山下敏夫様、最後に日本私立薬科大学協会会長の井上圭三様に、それぞれご祝辞を頂き、各大学関係団体が両校の法人合併を喜ばしく受け取って頂いていること、また今後も各方面より温

かいご支援を頂けることなどのお話を賜りました。そして祝杯となり、ご発声の音頭を大阪医科大学卒業生であり、大阪府医師会会長の茂松茂人様にお願い致しました。その後は皆様方の歓談の場となり、お食事などをお召し上がり頂きながら、楽しい時間をお過ごし頂きました。最後に、濱岡副理事長から記念祝賀会の閉会挨拶を申し上げ、式典は無事終了しました。

今回の式典・祝賀会は、全体として、粛々とした中にも和やかな雰囲気が進み、ご臨席の皆様方にも喜んで頂けたと思います。また両大学及び中学・高等学校からの式典関係スタッフも、一致協力して入念に開催の準備に当たるとともに、当日はおもてなしの心で対応し、成功裏に終わることができたと感謝しております。

(法人事務局長 磯田 洋三)

## 記念講演

### 「新世紀の私学へ ―学校法人大阪医科薬科大学の発足に贈る詞―」



内閣審議官（前国立教育政策研究所所長）

河村 潤子 様

ここ10年私立大学の約2割が入学定員の8割を満たす事が出来ない状態が続いています。

その中で創立の経緯が異なる法人の間で先を見通した合併を行うモデルになる先駆者がいないかと考えておりました。そんな折、両大学の提携の話があるようだと言き、両大学を訪問して直接話を伺ってから足掛け10年、粘り強く交渉を続けて来られた関係者へ敬意を表したいと思います。

大学は様々な課題に対して産業界や地域社会とも共同しながら、モデルを提示して次世代を開く鍵になる人材を養成していくことが期待されています。次の世紀を視野に入れて大学が質の高い教育・研究を展開していくためにはハード・ソフト両面の環境整備、また幅広く継続的な情報発信も必要です。そのためには強靱な経営基盤が必要であり、また逆に優れた教育研究を行うことは、意欲ある学生や熱意ある支援者を惹きつけることにつながります。このたびの法人合併は、まさにこのサイクルを大きく回していくスタートであると考えます。

学生にとって母校は自らの資質を育てる源、多くの人々とつながる拠点、また心のふるさとであります。これからは職業の上でも生活の上でも生涯学び続ける事が必要となります。

その時に常に頼りがいのある学舎であってほしいと思います。学生の成長は大学にとって最大の財産、学生達には大学が力強く発展を続けることが最大の贈り物。新法人による学舎が、次世代を拓き新世紀に続く舞台で活動する若人たちの鍛錬の場として、生涯を通じる良き伴走者として、発展されることを祈念します。



## 理事長 植木 實

今回の法人合併の成  
就は、両学校法人の関  
係者各位をはじめ多く  
のステークホルダーの  
皆様のご尽力とご協力の賜物です。本法人は、こ  
れからの社会情勢の変化も見据えながら、大学で  
は医学・薬学・看護学が連携・融和する先進的医  
療体制の構築と学際的教育及びチーム医療教育を  
推進しつつ、高質の医療人を養成し、中等学園で

は探究心を伴う教学強化を行い、次世代のグロー  
バル人材を育成するなど、それぞれ魅力ある学校  
作りを行い、教育、研究並びに医療のCenter of  
Community として、確固たるガバナンスのもと  
継続的社会貢献Sustainability を果たし、本邦で  
も特色ある最優の医療系総合大学・中等学園への  
発展を目指して邁進してまいります。

今後とも、副理事長をはじめ全役員と一致協力  
し、また多くの教職員や関係各位のご支援を頂き  
ながら一層努力して参りますので、さらなるご指  
導、ご尽力をお願い致します。

## 祝 辞

### 私学の在り方に大きな一石を投じた法人統合

衆議院議員・元文部科学大臣 平野 博文 様



9年におよび熱烈なる想いをこの4月に体现されたことは喜ばしく、また諸先輩の  
努力に心から敬意を表したいと思います。

今、時代は少子高齢化という大きな変化の中にあり、これからの大学のあるべき姿  
が問われることになります。

単科大学同士がこのような法人合併することは珍しく、今回の法人合併によって医  
療総合大学となったことは素晴らしいことです。これは先駆的な事例としてこれからの  
私学の在り方に大きな一石を投じた法人統合であると思います。

これを機にさらなる大きな発展をされることをご祈念申し上げます。

### ヒューマニズム溢れる研究と臨床を発展させていく挑戦

衆議院議員 大隈 和英 様



今ほど医療と創薬のイノベーションが世界的にも国家的にも必要とされ注目されて  
いる時代はありません。時代の要請に先んじて、医学と薬学、そして看護や介護の領  
域の垣根をなくして、それぞれの専門領域を更に補完しながら、ヒューマニズム溢れ  
る研究と臨床を発展させていく挑戦に、心からの賛意と敬意を表するものであります。

貴法人の今後益々のご発展と、関係各位の皆様のご健勝とご多幸、そして貴校に集  
い学ぶ全ての志ある若者の未来が成功に満ち溢れることを、心よりご祈念申し上げま  
す。

### 今後の更なる飛躍・発展の契機

高槻市長 濱田 剛史 様



両法人は長い歴史を有されており、今日の高槻の発展に与えた影響は大きく、市民  
にとっても不可欠の存在であるといえます。あわせて、両法人におきましては、これ  
までも地・学連携を通じ、様々な分野で地域社会の発展及び充実に寄与していただき、  
改めて心から敬意と感謝を申し上げます。この度、本市の誇りともいえるべき両法人が  
合併されましたことは、今後の更なる飛躍・発展の契機となるとともに、医学・薬学・  
看護学の連携と強い絆のもとで、社会に貢献する人材が今後も数多く高槻の地から羽  
ばたいていかれることをご期待申し上げます。



## の活躍

大阪大学大学院薬学研究科  
細胞生理学分野

教授 辻川 和丈さん



# 「外に出よ」世界を知れば財産になる

今号から、各方面で活躍するOB・OGをご紹介します。今号では、大阪薬科大学薬学部卒で、現在、大阪大学大学院薬学研究科・細胞生理学分野の教授を務める辻川和丈さん（57）です。がんの新薬開発に取り組む辻川さんを、大阪大学吹田キャンパス（大阪府吹田市）の研究室に訪ねました。

▶▶現在の仕事について教えてください。

**辻川** がんの特徴を探り、治療薬を創り出す研究に取り組んでいます。手術後のがん患者さんの検体や血液を提供いただいて、どうしてがんになるのか、悪性化していくのかということを検討します。そしてがんに特徴的に発現する分子を探し、その分子を標的にした薬の開発を目指しています。既に3種類の候補分子を見つけていて、日本医療研究開発機構（AMED）のプロジェクトで研究を進めています。学生当時、創薬で医療に携わりたいと考えていました。それが今につながっています。

▶▶研究室にはカイコのオブジェがたくさんありますが、どうしてですか。

**辻川** 分子標的治療薬を創る研究で用いるタンパク質を、カイコを使って作製し大きな研究進展があり

ました。そのせいもあり、研究に協力してくれているメーカーが、カイコのオブジェを何種類も提供してくれました。

▶▶大阪薬科大学の学生時代は微生物学研究室で学ばれました。

**辻川** 稲森善彦先生（現在・大阪薬科大学名誉教授）の指導を受けました。現在の微生物学研究室の辻坊裕先生は、学んだ時期は重なっていませんが、研究室の先輩です。また、辻坊先生は大阪大学大学院薬学研究科の先輩にもあたります。

稲森先生は「外に出て経験を積み、それが一流の研究者になるべき道だ」という意味のことをおっしゃっていました。その言葉を受けて大阪大学の大学院に進みました。辻坊先生もおそらく稲森先生と同じことを言われたのでしょう、やはり大阪大学の大学院に進んでおられます。稲森先生に大きな方向性を示していただき、辻坊先生が先輩であられたことで、私は今の仕事を続けることができています。お二人に感謝しています。

▶▶恩師に言われた「外に出ろ」という言葉通り、海外留学もされましたね。



**辻川** 大阪大学の助手時代の1993～95年、米国のハーバード大学医学部の関連医療機関、ダナ・ファーマーがん研究所に留学しました。世界のトップレベルの場でがんの研究をしたかったのです。ハーバードではノーベル賞級の科学者が集まり、頻繁にセミナーなどで話を聞けます。世界トップの研究について、たえず目にし、耳にし、知ることができたのは私の大きな財産です。現在、大阪大学の研究室でどういう研究をするのか、どのような運営をするのかという、私の中の基準ができたと思います。

今の若い人たちにも、なるべく海外に目を向けてほしいと思っています。たとえ留学しないにしても、「海外で学会発表できるようにがんばれ」とアドバイスし、「海外の学会に行きたい」と申し出があれば、「どんどん行け」と指導しています。

▶▶話題は変わりますが、ご自身が大阪薬科大学の学生時代に打ち込んだことは。

**辻川** 放送部の部長をしていました。部は、アナウンス、企画、技術の担当に分かれており、スピーカーやアンプ、レコードプレーヤーなどを配線したりするのが好きで、私は技術の担当。通常の活動は、昼休みの学内放送や、大学祭での放送劇でした。それに加えて、当時の松原市のキャンパスの前にあった幼稚園の子どもたちに何かできないかと、園長に掛け合いアニメ映画の上映会を企画しました。アニメ映像を上映して、学生たちが声優となってセリフをしゃべり、音楽や効果音も我々が工夫して出しました。今思えば「外にアピールすることが必要だ」と思ったのかもしれません。それまで放送部の活動は、学内への情報発信だけだったわけですから。

▶▶大阪薬科大学と大阪医科大学との法人合併がなされました。

**辻川** 大変重要で、素晴らしいことだと思います。薬科大学と医科大学とが接近することで、学生たちが高度な薬剤師を目指すことができますし、臨床と協力して研究できるようにもなるでしょう。薬剤師のスキルアップのためには、臨床現場が近くにあるべきです。また研究の面から言うと、薬科大学だけでがんの薬を創るのは難しい。なぜかという、がん患者さんは遺伝子の発現状態も、がんのステージも同一ではなく、違いがあるからです。こうしたことの情報を臨床から得なければなりません。私の時にはそうではなかったので、創薬の研究のためには、大阪大学のような総合大学に行くのがいいだろうという判断をしました。

▶▶大阪薬科大学の後輩の皆さんへのメッセージを。

**辻川** やはり「外に出よ」ですね。大学の中に閉じこもっているのは、情報や知識や経験は限られます。外に出ることによってまったく違う世界が広がり、そこから得られる知識は計り知れません。創薬研究を目指す人が一人でも多く出てほしいですし、その場合は外に出て研究者としての幅を広げてほしいと思っています。先生方の理解・協力が必要なのは当然ですが、それを前提に他の大学院も視野に入れておいてほしいです。

高度な薬剤師を目指す人も、外を見て知識や経験・情報を吸収し、広く羽ばたく薬剤師を目指してがんばってほしい。それが私が切に願うことですし、そういう環境を持っているのが大阪薬科大学の大きな特徴だと思います。



TSUJIKAWA Kazutake 辻川 和文

#### 略歴

1982年大阪薬科大学薬学部卒業後、大阪大学大学院薬学研究科修了、藤沢薬品工業(株)※研究員を経て、1988年大阪大学大学院薬学研究科助手。2012年から同教授、また附属創薬センター教授と大阪大学構造展開ユニット長を兼任

※当時の社名



## 実り豊かな キャンパスライフの ために

本学教授の春沢信哉学生部長、浦田秀仁教務部長、福永理己郎キャリアサポート部長と左記の学生6名がキャンパスライフを実り豊かなものにするために座談会を開きました。「本学を選んだ理由」「キャンパスライフ」「大学への要望」「教育内容への希望」の4テーマです。学務の教授と学生による座談会は初めての試みでしたが、活発に率直に語り合いました。

(聞き手は元毎日新聞論説委員でジャーナリストの池田知隆さん)

### CROSS TALK

◎出席者

[教員]

学生部長 春沢信哉教授(有機薬化学研究室)

教務部長 浦田秀仁教授(機能分子創製化学研究室)

キャリアサポート部長 福永理己郎教授(生化学研究室)

[学生]

杉町莉世さん(6年次生)、和田伸也さん(4年次生)

吉田舞衣さん(3年次生)、田口真希さん(3年次生)

廣瀬光之輔さん(2年次生)、星野直大さん(2年次生)

### »大阪薬科大学を選んだ理由はなんですか。

**杉町** オープンキャンパスに参加した時の印象がとても良く、地元の豊中市からも通いやすいという点でこの大学を選びました。薬学を学ぶという同じ志を持った人たちが集まって、目標をもって勉強できると思いました。

**和田** もともとは医師になりたかったのですが、医学部の受験に失敗し、予備校の先生の勧めでここに入りました。実際に薬学の世界に触れてみて、自分に合っているな、と思っています。1年次生の時、病院、薬局を見学し、実習などでいろんな患者さんに会い、医療の世界に入ることができて満足しています。いま、実務実習に向けてのC B T(Computer-Based Testing、薬学共用試験)の試験

準備でちょっと苦しんでいます(笑)。

**吉田** 横浜市立大学で4年間、化学を学んでいましたが、薬学を学ぼうと目標を決め、再受験して移ってきました。それまでの比較的のんびりした大学生



杉町莉世さん



和田伸也さん



春沢信哉教授



浦田秀仁教授



福永理己郎教授

活とは違い、ここではほとんどの科目が必修で、朝9時から勉強し、高校生活の延長のようです。カリキュラムもぎっしりと組まれ、定期試験も厳しく、身のしまる思いをしています。それだけ先生方にもいろいろと気をつけていただいています。

**田口** 私は大分県出身です。高校の時、製薬会社を見学し、薬の神秘的な世界にひかれました。古くからの薬品会社が集まり、世界でも特殊といわれる大阪・道修町を母体として育った大学に未来を感じました。

**廣瀬** 兵庫県出身です。高校2年生の時に職業選択の際、「薬学のすすめ」というパンフレットを見て、たった一つの薬で何億もの人々の命が救われる薬に興味をもちました。大阪医科大学との法人合併の情報も聞いていたので、ここに来ました。

**星野** 三重県の出身です。親戚など周りに医療系の人が多く、関西で医療系、理系の大学を選んでいるうちに、ここにたどり着きました。

▶▶▶キャンパスライフを楽しんでいますか。

**杉町** 1～3年次生の時は、フォークソング部で活動し、勉強以外でも学生生活を十分楽しみました。試験や研究で不安なこともありましたが、先生方の熱心なご指導のお陰で乗り越えることができました。

**吉田** 率直に言えば、学生に対してちょっと「過保護」かな（笑）。いい意味でいえば「面倒見がいい」ともいえます。私はいろんな分野の人との交流をしたいので「日本薬学生連盟」の加盟団体である医療系同好会P A R C（パーク）に所属しています。これは、薬学生による薬学生のための団体で、学生の

学生に対してちょっと「過保護」かな（笑）。



吉田舞衣さん



田口真希さん



廣瀬光之輔さん



星野直大さん

学生の皆さんは遠慮せず、どんどん声をあげてほしい。



うちから世界の薬学生と交流し、病院や企業を見学し、献血推進活動や医薬品適正使用推進活動、P P A C（薬剤師認知向上キャンペーン）などの公衆衛生活動にも取り組んでいます。

**田口** 私も吉田さんと同じく「日本薬学生連盟」の活動に参加し、留学生を招いて薬局を見学するなど視野を広めるように頑張っています。高校生の時に抱いていた大学のイメージとは異なり、学ばなければならないボリュームが多く、思っていた以上に試験が大変です。

**廣瀬** 硬式テニスのクラブ活動に打ち込んでいます。講義の内容はできるだけその時間内で理解するように努め、とても充実しています。

**星野** とにかく学習量が多い。日々、復習をするようにしていますが、試験の荷重が大きいですね。

**浦田（教務部長）** 薬学は卒後に国家試験を控えていること、モデル・コアカリキュラムで教授すべき内容が細かく定められているのでカリキュラムも過密になっていて、しかもほとんどが必修科目になっています。1年次生の時から基礎をみっちり学び、それを土台にして自分の興味のある分野を見つけ、伸ばしていったほしい。

**春沢（学生部長）** 薬学部が4年課程だった私の学生時代は、今に比べてのんびりしていました。しかし、6年課程になって以降、学ぶ内容が増え、出欠も厳しくとっています。国家試験の問題数は1.5倍、繰り返し読まなくてはならない参考書などの厚さは約10倍になっていますよ。「過保護」という意見もありましたが、1年次生のうちから将来の仕事のことを見据えて基礎的な学習をしてもらいたい。

1コマ90分の講義は長すぎる…  
食堂のスペースやメニューなど、改善してほしい…



▶▶大阪薬科大学は大阪医科大学と法人合併しましたが、これからの大学への要望は。

**吉田** 昨年、オランダのアムステルダム大学からスタディツアーとして、本学は学生20名を受け入れましたが、とても楽しくいい体験でした。国際交流や留学生などの受け入れにさらに取り組んでほしいですね。

**春沢** タイの大学との提携なども増え、ここ数年、国際交流の機運が盛り上がっていますよ。

**田口** 個人的なことですが、最近の食堂のメニューが毎日、似たようなもので寂しい思いをしています。お昼の時間、カフェテリアがいっぱいで、食堂以外のお店などがあれば、いいのですが。

**廣瀬** 私も同じく食堂を改善してほしい。それからバスの直行便を増やしてほしい。特に帰りのバスが不便です。

**星野** やっぱり学生ラウンジにもっと広いスペースを確保してほしい。2限目の後、食堂にいくと、食事する場所を探すのが大変です。

**春沢** 食べることは大きな楽しみのひとつです。学生の皆さんのマナーの問題もあるかと思いますが、学習スペースは足りているはずですよ。でも、学生の皆さんはそのような声を遠慮せず、どんどんあげてほしい。できるだけ改善していきますから。

▶▶いま、学生の皆さんが積極的に討論などを行い、自発的に課題を解決していく力を育てようと「アクティブラーニング」という21世紀型の学習が求められています。教育内容についての希望はありますか。

**杉町** 国家試験では下位年次からの積み重ねが大切だと痛感しています。普段の試験から真剣に取り組んで、学力をつけなければなりません。そのためには先生方には過去問ベースではなく、真面目に勉強した学生が受かるような試験にしてほしいです。

**春沢** 試験は実力を高めるための手段です。試験対策として過去の問題を見ているだけではだめですよ。同じような内容でも、私は設問を工夫し、過去問を見ないで出題するようにしています。本当の意味での実力をつける勉強をしてくださいね。

**田口** 大阪医科大学では1コマ60分の講義が行われるようになったそうです。人間の集中力からいっ

て90分は長すぎるし、私が留学したカナダでは45分から50分の講義でした。海外ではそれが普通になってきているようです。それに国家試験の合格率を上げるように取り組んでほしい。

**和田** 4年次生の場合、午後から講義がある日があり、昼からは大学に行きにくい感じになり、できれば朝から講義を受けたい。カリキュラムに工夫をしてもらえたら、ありがたい。それからキャンパスの設計上、(研究棟と講義棟が離れていて)先生に質問をしにくいような気がします。もっと気軽に語り合えたらいい。

**廣瀬** 基本的に講義の内容は分かりやすく、その時間内で理解していくように努力しています。

**星野** 先生方がポンポンと講義を進め、なかなか質問できず、疑問を未解決のまま時間が過ぎてしまうことも多い。

**春沢** 皆さんはもっと気軽に先生方の研究室を訪ねてください。

**浦田** 本学は、皆さんの学習支援を目的として今年度から基礎薬学教育研究センターを設置しました。質問や疑問などがあれば、ぜひ気軽に利用してください。また、このセンターは「アクティブラーニング」の導入を積極的に進め教育の質の改善を図ります。

**福永** (キャリアサポート部長) キャリアサポートの面から言えば、やはりコミュニケーション能力をつけてほしいですね。それは簡単なことではありませんが、新しいカリキュラムでは早い時期から研究生活に入りますから、研究室活動を通して身につけてください。また、サークル活動などの課外活動もコミュニケーション能力の向上に役立ちます。

▶▶本日は活発かつ率直に語っていただき、ありがとうございました。





大阪薬科大学は8月、地域医療実習として高知県地域医療支援プロジェクトに薬学部の学生2名を初めて派遣しました。大阪医科大学が高知県との協定に基づいて平成27年から医師を派遣していますが、今回は大阪医科大学の医学部と看護学部の各2名とともに計6名で多職種連携チームを組み、行われたものです。

派遣先は高知県本山町の町立国保嶺北中央病院（131床）で8月3日から5日までの3日間、2チームに分かれて地域医療の現場を体験しました。

**中村** 地域医療の体験を主眼とする医学、薬学、看護学部生の多職種連携による派遣は全国的にも極めて珍しいことです。病院内においてチーム医療が求められていますが、薬学師としてどのように関わることができるのか、考える機会になりましたか。

**梶** 私は香川県善通寺市の出身なので派遣先の地域に近く、地域医療の実情を知りたかったので参加しました。実際に現地に行ってみて、薬剤師という存在そのものが知られていないのに驚きました。へき地では住民が薬剤師と接触する機会がないのです。

**山口** 私も大阪医科大学などで実習体験をさせていただきましたが、都市での医療の様子しか知らず、へき地医療の実態は知りませんでした。薬剤師が多い都市部に比べ、地方では薬剤師の姿が見えません。地域の患者さんにとって薬学とは何なのか、考えさせられました。また、医学・看護学部生とともに実習することで患者さんの背景を知ることの大切さも改めて実感しました。

**中村** 今回の実習は3日間でしたが、受け入れ側の病院に盛りだくさんのスケジュールを組んでいただきました。もう少し長く、ゆとりをもたせた実習にしたほうがよかったでしょうか。

**梶** そうですね。地域医療における薬剤師の存在について知ることができ、本当によかったと思います。最終日に現地で報告会を開きましたが、同じ実態を見ても、医学生と看護学生と私たち薬学生とではそれぞれ違った見方をしていることを知ることができました。来春には企業に就職しますが、今後の仕事の中で、この体験をしっかり活かしていきたいと思っています。

**山口** 私は他の学部の学生と交流できたことが新鮮で、充実した時間を過ごすことができました。本実習は薬剤師としての将来像を思い描けるとても貴重な経験となりますので、可能であれば就職活動を始める前の段階で実習ができるといいと感じました。

**中村** 医療人としての倫理観や使命感を育成するには講義だけでは不十分です。医学生や看護学生と学生のうちから触れあうことで視野が広がると思います。今回の2人の感想を聞いてそのことをより強く感じました。今後も、このような取り組みを、より充実させ、拡大していきたいと思っています。



## 就 任 の 挨 拶

### 製剤設計学研究室 助教 内山 博雅



この度、平成28年8月1日付で、製剤設計学研究室（戸塚裕一教授）の助教として着任いたしました。

私は、平成24年に大学院薬学研究科の博士課程を修了後、製薬企業の製剤研究所で約4年間勤務しておりました。

私は大学院において、製剤設計を専門としており特に溶解性改善に関する研究を行ってきました。溶解性改善のメカニズムを分子レベルで解明するとともに、細胞や動物を用いた吸収性の評価も行ってきました。その後、製薬企業の製剤研究部においては、抗がん剤などの新薬の経口製剤化について処方設計および製法開発を担当。また、グローバルでの治験を成功させるために海外の製薬企業と共同で仕事を進めてきました。その際に最も印象に残っていることは、海外企業ではすでにダイバーシティの考えが浸透しており、様々な人種の人々が英語という共通語を用いて働いていたことです。昨今では労働人口の減少が懸念され、今後日本社会においても労働者の確保のため、外国人労働者が働く機会がますます増えると考えられます。その際には、研究者、薬剤師にかかわらず語学力が求められる時代がやってきます。さらに、互いの文化や考え方の違いを理解し受け入れ、円滑なコミュニケーションをとる力も求められます。私たちの研究室では、海外の方々の考えを受け入れ、失敗を恐れず積極的にコミュニケーションをとり、ともに研究を進め問題を解決することができるような人材育成を目指しております。私は、日々のディスカッションを通して問題解決能力およびコミュニケーション能力を高めることで、社会に貢献できる医療人の輩出を目指しております。

皆様方のご指導、ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いいたします。

### 臨床教育・研究支援課 庄門 大樹



この度、平成28年12月1日付で大阪薬科大学事務職員として採用頂き、臨床教育・研究支援課へ配属となりました庄門大樹と申します。この場をお借りしまして、ご挨拶申し上げます。前職は、レコード会社にて主に、販売促進・宣伝担当として、アーティストの意向を汲み取り、支えることやファンの皆様

に情報発信をする業務に従事しておりました。異業種ではありますが、活かせる経験は活かし、本学の発展と学生様がより良い学生生活を過ごせますよう、一日でも早く貢献できるように努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

### 生化学研究室 助教 藤井 俊裕



このたび平成28年10月1日付で大阪大学免疫学フロンティア研究センター（IFReC）より、本学の生化学研究室助教に着任しました藤井俊裕と申します。

私は、名古屋大学理学部を卒業後、大阪大学大学院に入学してから11年以上の間、基礎研究を続けてきました。大学院生の頃は、現在、生化学研究室の教授である福永先生の指導のもと、核内タンパク質の遺伝子制御に関する解析をしてきました。博士課程修了後は、血小板の細胞膜のリン脂質が及ぼす血液凝固反応の制御についての研究を行ってきました。このように私はこれまでに薬剤師育成教育に携わったことがありませんので、最初は先生方や職員の皆様に迷惑をお掛けすると思いますが、本学の雰囲気や教育方針に早く馴染んで、学生の実習をしっかり指導し、また大学生活が充実するようにサポートしていきたいと思っています。よろしくお願い致します。

### 教務課 野村 友紀子



この度、平成28年12月1日付で大阪薬科大学事務職員として採用頂き、教務課へ配属となりました野村友紀子と申します。「学校法人大阪医科薬科大学」としての成長に携われることを大変嬉しく

思っております。社会人二年目と、未熟者ではありますが、学生の皆様がより有意義な学生生活をおくれるよう、そして本学の更なる発展に貢献出来ますよう、精一杯頑張ります。本学に携わる皆様とのコミュニケーションを大切に、相互理解を深めていければと思います。これからどうぞ、宜しくお願い致します。

### 総務課 濱田 桂輔



この度、平成28年12月1日付で大阪薬科大学事務職員として採用頂き、総務課へ配属となりました濱田桂輔と申します。

前職では食品メーカーにて人事総務の業務を行っておりました。着任に当たり不安な点も多々ありましたが、周りの方々がとても温かく迎えて下さり安心しております。

ご迷惑をお掛けすることもあるかとは思いますが、今までの経験を活かし一刻も早く貢献していきたいと思っていますので、何卒宜しくお願い致します。



大薬祭実行委員長  
土屋 侑未

## 第51回大薬祭「Reborn!!」を終えて

第51回大薬祭は、テーマ「Reborn!!」に相応しい新たな一歩を踏み出した年だったと思います。

例年以上の盛り上がりを見せた FM802 との共同企画である「ROCK KIDS 802 学園祭 SPECIAL LIVE！祭！祭！祭！ 大薬祭アーティストライブ～Reborn!!～」や、2日とも閉店前に完売してしまったクレープ販売やメロンパン販売など、他の様々なイベントでもたくさんの盛り上がりを見せてくれました。

ここまで今までにないことに挑戦できたのは、実行委員の幹部のおかげと言っても過言ではありません。学祭の半年前から一緒に準備してきた幹部の姿を見て、自分も今年しか出来ないことや新しいことに挑戦してみたいという気持ちになりました。また、幹部のみんなは学祭までの期間はもちろん、学祭中も私の見落としていることをすかさずフォローしてくれて、その度に仲間の頼もしさを感じ、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

今年度の大薬祭が成功したのは、実行委員一人ひとりのおかげです。夏休み明けの9月中旬から大薬祭までの毎週土曜日、大薬祭期間中前後の約1週間はほとんどの時間を大薬祭の運営に費やしてくれ、当日は朝7時に集合して1日中働いてくれました。幹部数名は大学に泊まり込み、睡眠時間を削りながらも仕事に努めていました。仲間の終わっていない仕事について、自分を犠牲にしまで手伝う姿を見て、今年の大薬祭は必ず成功すると確信しました。実行委員は実行委員でありながら、一学生です。Daiyaku Collection や薔薇祭などを見たいという気持ちはひしひしと伝わりましたが、まずは大薬祭運営のことを優先し熱心に働いてくれました。この場を借

りてお礼を言わせていただきます。本当にありがとう！

大薬祭当日まで正直不安はありました。天気予報を見て1日目の天気が雨だったときに備えて念入りに打ち合わせを行いました。やはり当日何が起こるか分からない状況であることは十分に分かっていたので不安はずっとありました。しかし、大薬祭がいざ始まるとそんな不安は一切なくなりました。自分が今まで頑張ったからとかではなく、頼れる仲間がいるのがよく分かったからです。その時自分がいかに恵まれているかを再確認しました。そして、部活やサークルの学生が充実しながら模擬店を運営している姿を見て、大薬祭にお越し頂いた方の笑顔を見て、大薬祭は成功しているのだと安心することができました。

大薬祭実行委員をきっかけに、100名を超える人との出会いがありました。大薬祭を終えて何気なく大学内を歩いていると、数多くの実行委員が笑顔で挨拶をしてくれるようになりました。素直にうれしく感じるとともに、重責である実行委員長を最後まで全うして良かったと毎回の挨拶で感じています。

私はこの数ヶ月という期間で仕事の仕方、リーダーの在り方、新しい仲間との出会いなど、数えきれないほどの人生の糧を手に入れることができました。大薬祭を通して学べたこと、出会い、全てに感謝しています。

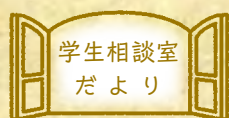
最後に、大薬祭開催にあたり協力していただいた地域の皆様、同窓会、育友会の皆様、業者の皆様、大阪薬科大学の教職員の皆様、手厚くアドバイスやフォローしていただいた先輩方に多大なるご支援、ご協力を賜りましたことを、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

## 三大学医工薬連環科学教育研究機構の活動状況(その11)

准教授(特任) 銭田 晃一

本機構は平成21年度「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」に採択され発足し、3年間の財政支援終了後も活動を続けています。機構の主な取り組みは一般の方を対象にした地域への社会還元活動と皆さんを対象にした教育課程の構築と教育環境の整備です。教育の面で本年度前期は本学の基礎教育2年次選択科目になっている「医工薬連環科学」を三大学の教員によるオムニバス形式で実施し、本学56名、大阪医科大学111名、関西大学11名が受講しました。また、関西大学へ芝野先生の「基礎漢方薬学」配信と本学での実習、大桃先生の「応用放射化学」配信と大阪府立大学地域連携機構放射線研究センターにおける見学実習を行いました。府立大学での見学実習は今年で5年になりますが、今回は関西大学の学生6名に加えて本学の学生2名が参加しました。また、放射線利用に関する講義や放射線計を用いた身近な物の放射線測定、コバルト60照射施設の見学のほか、同センター発ペルチェ冷却式霧箱を用いた $\alpha$ 線や $\beta$ 線、 $\gamma$ 線により弾き出された光電子の観察もさせていただくことができました。後期は本学から「生薬学」と「機能形態学1」、大阪医科大学から「生命誌」、

関西大学から「福祉工学概論」と「機能性食品」が配信されているところです。これら双方向講義は遠隔講義(テレビ会議)システムで行われているため、本学に居ながら他大学で行われている講義をリアルタイムで受講できるのが特徴です。



## キャンペーンしました(´▽`)ノ

学生相談室

学生生活を続ける中、いろんな悩みが生じて来ます。そんな悩みの相談が出来るのが学生相談室です。学生相談室はA棟1階にあります。

今年6月、学生相談室の存在を学生の皆さんに知ってもらおうと、学生相談室キャンペーンを行いました。6月30日(木)実施で全学生へ案内したところ、予想を上回る学生の参加となり、翌週に追加で実施する事となりました。合計で約100名の参加者がありました。

誰でも気軽に相談できる環境づくりと、今まで以上に

相談室の認知度をアップさせる事を今後も継続して実行して参ります。

### 学生相談室

本学では、学生相談室を設け、週に3回、カウンセラー(臨床心理士)が相談を受け付け、学生が抱える問題や悩みに対処しています。



若林 暁子 相談員  
(火曜日担当)



小田 佳子 相談員  
(木曜日担当)



西田 裕子 相談員  
(金曜日担当)

開室時間：毎週火・木曜日 12:00～16:00  
毎週金曜日 14:00～18:00

TEL：(072)690-1077(直通)

E-mail：counsel@gly.oups.ac.jp



## 五大学連携活動状況

五大学連携事業担当 教授 **三野 芳紀**

関西の特色ある5つの大学（武庫川女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、大阪電気通信大学、関西大学、大阪薬科大学）は、相互に連携して、平成21年度（2009）から医療・福祉・工学・情報学など、複数分野にわたる高度な知識や技能を持った人材を育成するために、共通講座を開始しました。現在では、藍野大学、森ノ宮医療大学からの聴講生を受け入れ、異なる専門領域の学生が講義や見学実習を通して交流しています。

広域大学（本学では五大学と呼ぶ）連携科目は、下表の通り5つの教育プログラム、計7科目で構成されています。どの科目も魅力的ですので、積極的に参加してください。本学が担当している「理系女性人材育成プログラム」では、男子

学生の参加を特に歓迎します。男女共同で“女性が活躍できる社会”を考えてみましょう！見学実習では、模型の虫歯を削ったり、手術ロボットのダヴィンチを操作したり、心臓カテーテルの挿入の手技を学んだりします。また、多くの科目において学生が交流できるグループワークや発表会を取り入れています。座学だけでは決して得ることのできない貴重な経験がここにあります。

お陰様で、修了者数はここ数年順調に増加しており、この2年は100名を超えています。特に、見学実習のできる「プレプロフェッショナル教育」は人気がありますが、参加人数に制限があるので、多くの学生の希望に沿えないのが現状です。どうか、ご了承ください。

広域大学関連科目一覧

| プログラム名（一口で言うと）                              | 科目名                                                                                    | 開講場所                                                                             |
|---------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| リベラルアーツ教育<br>（世界に通用する感性を身につける）              | ①臨床医工学・情報学の知性・感性・教養<br>②臨床医工学・情報学の実践論                                                  | 関西大学千里山キャンパス                                                                     |
| 社会教育<br>（地域に貢献できる人材をめざして）                   | ③健康環境論<br>④地域活性化システム論                                                                  | 武庫川女子大学                                                                          |
| プレプロフェッショナル教育<br>（医学・医療の即戦力になろう）            | ⑤プレプロフェッショナル教育<br>専門科目：臨床医工学入門コース<br>医学・医療入門コース<br>共通科目：理系英語入門<br>：医学統計学入門<br>見学実習：8施設 | 武庫川女子大学<br>大阪薬科大学<br>実習は、大阪大学医学部附属病院（未来医療センター、核医学診療科）、国立循環器病研究センター、大阪大学歯学部附属病院など |
| 理系女性人材育成<br>（社会で活躍する女性になるために）               | ⑥理系女性のキャリアパス設計論                                                                        | 大阪薬科大学                                                                           |
| アクティブラーニング<br>（異文化交流プログラムでチーム医療・チーム福祉を体験する） | ⑦多職種協働グループワーク実践論                                                                       | 武庫川女子大学                                                                          |



## 言語文化学グループ

言語文化学グループでは、語学学習や国際交流のサポートを積極的に行っています。英語学習のモチベーション向上や就職活動に利用してもらうため、年に3回TOEIC IP testを実施しています。さらに、ネイティブスピーカーと英会話ができるE-chatという課外活動も開催しています。その他、必要に応じて語学学習や短期留学のアドバイスを行っています。英語学習で困ったときも、気軽に訪ねて来てください。

教授 **楠瀬 健昭**

わたしは文学研究（小説と詩）を専門とし、高校と大学で英語教育を実践してきました。英国の詩人Gerard Manley Hopkins（1844-1889）の詩を読み、今ソネット（十四行詩）を読破するところです。テーマは、神の栄光をたたえることが中心になりますが、自然と人間についてもさまざま言及しています。とりわけカワセミ、チョウゲンボウの詩は秀逸です。科学にも関心があり、彗星や虹をテーマにした詩もあります。その他、夕暮れ、山川草木、星空、収穫の喜び、人間の美、内面の苦悩、海難事故など多彩です。これらの詩を読みながら、これからも詩を詠みたいと思います。Bob Dylanがノーベル文学賞を受賞して注目されていますが、詩と音楽は密接に関係します。詩は音読されてきたものです。英語学習の決め手も音読だと考えます。

准教授 **スミス 朋子**

わたしの専門分野は言語学です。言語学は様々な言語の現象を研究しますが、その中でも主に「意味」についての研究を行っています。そして、言語学の知識を生かしながら、専門言語教育も実践しています。最近では、多義語を中心に研究しています。例えば、高校では、developという単語の意味を「発達させる」、「開発する」などと学びます。しかし、developの意味はそれだけに限りません。文脈によっては「（病気）になる、かかる」という意味でも用いられます。このように、一般的に用いられるが、医療の文脈では意味が変化する専門用語を収集・分析しています。

# 総務課

## ■人事

|                                                           |                          |
|-----------------------------------------------------------|--------------------------|
| 採用（平成28年8月1日付）<br>助教                                      | 内山 博雅                    |
| 採用（平成28年10月1日付）<br>助教                                     | 藤井 俊裕                    |
| 採用（平成28年12月1日付）<br>事務職員<br>事務職員<br>事務職員                   | 庄門 大樹<br>野村 友紀子<br>濱田 桂輔 |
| 任期更新（平成28年10月1日付）<br>臨時教育補助教員                             | 竹林 裕美子                   |
| 配置換え（平成28年10月1日付）<br>教務課課長補佐から学生課課長補佐<br>学生課事務職員から教務課事務職員 | 山之内 有右<br>阿部 陽泰          |
| 併任（平成28年8月1日付）<br>大学院博士前期課程担当教員                           | 内山 博雅（助教）                |
| 委嘱を解く（平成28年6月30日付）<br>放射線取扱主任者                            | 大桃 善朗（教授）                |
| 委嘱（平成28年7月1日付）<br>放射線取扱主任者                                | 平田 雅彦（講師）                |
| 招へい教授（平成28年11月1日付）                                        | 芹川 忠夫                    |
| 客員研究員（平成28年7月1日付）                                         | 森 龍彦                     |
| 客員研究員（平成28年11月1日付）                                        | 芹川 忠夫<br>森本 茂文           |

## ■寄付

加地 章（昭和33年本学卒業）  
本学教育研究活動への寄付金 300万円  
（平成28年9月28日付）

## ◆神戸市立医療センター中央市民病院と 包括協定を締結

平成28年4月1日付で神戸市立医療センター中央市民病院と本学との間で包括協定を締結しました。これにより、今後、教育・研究の機会の提供による人材の育成、臨床研修の場としての相互利用等、臨床薬学教育の推進を図るとともに、地域医療への貢献を目指していきます。

## ◆防災訓練

平成28年9月27日（火）に高槻市北消防署員立会の下、防災訓練を実施しました。

12時7分にB棟6階機能分子創製化学研究室第一研究室より地震に伴う火災が発生したとの想定で開始され、学生及び教職員参加による消火・通報連絡・避難誘導・警備・救護の各訓練を実施しました。

避難集合場所において、同署員から注意喚起を含めた講評をいただいた後、消火器使用の実演、起震車による地震体験を行いました。

## ◆平成28年熊本地震災害募金について

平成28年5月9日（月）～5月31日（火）の間、実施いたしました教職員からの熊本地震災害募金額は、計65,347円となりました。

育友会から500,000円、学生から17,665円、学友会から200,000円の募金と合わせて、合計783,012円を一括して大阪薬科大学からの募金として日本赤十字社「平成28年熊本地震災害義援金」受入口座へ平成28年7月4日付で送金しました。

## ◆研究助成採択

[研究助成機関] 公益信託 医用薬物研究奨励富岳基金  
平成28年度研究助成

[採択者] 尾崎恵一教授（基礎薬学教育研究センター）  
[採択テーマ]

ERK-MAPキナーゼ経路によるヒストン脱アセチル化酵素（HDAC）阻害剤感受性制御機構の解明

## ◆職場体験学習の中学生を受け入れました

地域連携教育の一環として、毎年高槻市立阿武山中学校から職場体験学習の生徒を受け入れています。本年は10月27日（木）・28日（金）の2日間、2年生の女子生徒2名が、図書・情報課で図書館業務を体験しました。終日笑顔で対応し、真面目に丁寧に仕事をしてくれました。大薬祭の期間中で、入館者や図書の貸し出しが少ない時期でしたが、インタビュー質問がよく考えられていてこちらの対応も真剣になるなど、楽しく心とむ2日間となりました。生徒達にとって、この体験が心に残る人生経験となってくれることを期待します。

## ◆「第5回大阪薬科大学学術講演会 in 東京」のご案内

|          |                                                                                                    |
|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日時       | 平成29年2月18日(土) 14:00～17:00、懇親会 17:00～                                                               |
| 場所       | 第一ホテル東京 4F会議室(東京都港区新橋1-2-6/TEL 03-3501-4411)                                                       |
| 演題       | 「医薬連携に基づく薬学的知見の創出～薬物動態学の知識を生かした臨床研究～」<br>大阪薬科大学臨床薬学教育研究センター<br>教授 中村 任 氏                           |
|          | 「化学熱傷の恐ろしさ ―産業現場での労災死亡事例を中心に―」<br>一般社団法人大阪医科大学仁泉会理事長<br>元大阪医科大学医学部医学科衛生学 公衆衛生学教室教授<br>名誉教授 河野 公一 氏 |
| 学術講演会参加費 | 無料(日本薬剤師研修センター受講シール1点配布予定)                                                                         |
| 懇親会参加費   | 10,000円                                                                                            |
| 定員       | 100名(先着順)                                                                                          |
| 問い合わせ先   | 大阪薬科大学同窓会事務局(月～金13:00～17:00)<br>TEL&FAX 072-690-1099 E-mail:dosokai@gly.oups.ac.jp                 |
| 主催       | 大阪薬科大学・大阪薬科大学同窓会                                                                                   |

## ◆地域連携

## 高槻市立阿武山小学校3年生の社会見学について

平成28年5月31日(火)、高槻市立阿武山小学校3年生児童32名が本学を訪れました。

児童たちは、生薬科学研究室と薬用植物園を見学しました。1時間という限られた時間ではありましたが、生薬科学研究室では、身近な植物が薬の成分に使用されていることや、普段目にすることのない実験器具の説明を受け、興味深く聞き入っていました。薬用植物園では、実際に薬の元となる植物を手にとって見たり匂いを嗅いだりし、楽しく見学しました。両施設の見学後は、本学の永井教授が児童との質疑応答に対応しました。



## 高槻市立阿武山小学校区放課後子ども教室活動「あぶちゃん教室」について

平成28年7月20日(水)、高槻市立阿武山小学校区放課後子ども教室活動『あぶちゃん教室』プログラムの一環として、阿武山小学校3年生～6年生の10名が本学を訪れました。

放課後子ども教室活動とは、地域社会の中で放課後や週末等に子どもたちが安全で安心して、健やかに育まれることを目指し、文部科学省の「放課後子ども教室推進事業」と厚生労働省の「放課後児童健全育成事業」を一体的あるいは連携して実施するため、平成19年度よりスタートした活動です。

児童たちは本学の永井教授による授業を受けた後、D棟ラウンジや学生食堂等を見学し、最後に永井教授が児童との質疑応答に対応しました。授業の中では児童たちに実験をしてもらう場面もあり、目の前で飲み薬が溶けていく様子を熱心に観察していました。



## ◆メディアへの掲載・放送等 (平成28年1月～10月)

| 掲載・放送日<br>(平成28年) | 件 名                                         | 掲載・放送媒体                  | 関連者                      |
|-------------------|---------------------------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 2月22日             | 国立循環器病研究センターと大阪薬科大学の包括協定締結(平成28年2月17日付)について | 薬事日報                     | 政田学長                     |
| 3月28日             | 法人合併について(座談会形式)                             | エコノミスト「ザ・関西」臨時増刊(毎日新聞出版) | 植木理事長<br>浜岡副理事長          |
| 4月1日              | 法人合併について(座談会形式)                             | ドクターズアテンション(株)協同企画サービス   | 植木理事長<br>浜岡副理事長          |
| 4月4日              | 「認知症早期発見プロジェクト」について                         | 薬事日報                     | 恩田准教授                    |
| 4月5日              | 「がん大国白書」の記事中に引用<br>米国の薬価制度について              | 毎日新聞                     | 恩田准教授                    |
| 4月9日              | 薬局薬剤師の役割、おくすり手帳について                         | リビング新聞(サンケイリビング新聞社)      | 恩田准教授                    |
| 4月13日             | 「COMPASS研究が論文化」の記事中に引用                      | 薬事日報                     | 恩田准教授                    |
| 4月25日             | 「Pickup 大学教育の実際」について                        | Fresh Leaf(アルフレッサ)       | 辻坊教授<br>銭田准教授(特任)        |
| 5月16日             | 教育「雄弁・熱弁」<br>法人合併について                       | 産経新聞(朝刊)                 | 植木理事長                    |
| 6月17日             | 白衣授与式について                                   | 薬事日報                     | 大阪薬科大学                   |
| 6月20日             | 「近畿地区トピックス」<br>法人合併について                     | ドラッグトピックス(株)ドラッグマガジン     | 大阪薬科大学                   |
| 7月15日             | 法人合併記念式典・祝賀会開催について                          | 薬事日報                     | 大阪薬科大学                   |
| 7月20日             | 医薬看合同で地域医療実習<br>学校法人合併後最初の成果について            | 薬事日報                     | 大阪薬科大学                   |
| 7月25日             | 薬の飲み合わせについて                                 | 情報番組「おはよう朝日です」(朝日放送)     | 井尻准教授                    |
| 8月5日              | 学生が嶺北で医療実習<br>地域医療に取り組む協定について               | 高知新聞                     | 大阪薬科大学<br>大阪医科大学         |
| 10月10日            | 「病薬アワー」<br>米国の薬価制度について                      | ラジオ NIKKEI(株)日経ラジオ社      | 恩田准教授                    |
| 10月19日            | 日本薬学会近畿支部大会<br>「一日在宅体験プログラム」について            | 薬事日報                     | 5年次生 糸 明日香<br>5年次生 北村光祐紀 |

※大阪薬科大学広報規程第6条により、報道機関による取材に応じた場合は、総務課へご連絡ください。

## ◆本学の社会貢献活動 — 市民講座委員会からの実施報告 —

＜実施報告＞第42回市民講座を、以下の通り開催しました。

|       |                                                                                                              |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催日   | 平成28年10月8日(土) 13:00～16:10                                                                                    |
| テーマ   | スポーツと健康管理                                                                                                    |
| 演題・講師 | ①夢の実現～オリンピック金メダル獲得までのプロセスと生活習慣～<br>専修大学 教授 佐藤 満<br>②皆で支えるドーピング防止活動<br>北海道大学病院薬剤部 DI室・臨床業務支援室<br>副薬剤部長 笠師 久美子 |
| 会場    | 大阪薬科大学 C105講義室、C104講義室                                                                                       |



## 施設課

### ◆学内環境整備(図書館LED照明工事、 大学会館自動ドア設置工事)について

8月中旬に図書館LED照明工事および大学会館自動ドア設置工事を行いました。

図書館内の照明をLED化することで、省エネルギーに資するだけでなく、耐震性も向上しました。また、学内全面のバリアフリー化に向けて、大学会館(食堂入口)の自動ドア設置工事を行い、これで主要な建物の自動ドアの設置が完了しました。

施設課としては、今後も学内の声を尊重しながら、学生の皆さんが快適に過ごせる環境づくりを推進していきます。



## 教務課

### ◆平成28年度学位授与

[博士]

論文博士

博士(薬科学) 論博薬科第73号 田中 早織  
胃幽門腺粘液細胞におけるPPAR $\alpha$ によるNOS1/NO/  
cGMPを介したCa<sup>2+</sup>調節性開口放出の増強

(平成28年6月30日付)

課程博士

博士(薬学) 博薬第29号 庄司 雅紀  
薬局薬剤師の対人業務の強化に関する薬学的研究—薬  
剤師によるbrief interventionが患者の生活習慣と医療  
の安全に及ぼす影響について—

(平成28年6月30日付)

[学士]

学士(薬学)

薬学科 男子2名 計2名

(平成28年9月30日付)

# 入 試 課

## ◆オープンキャンパス2016報告

夏のオープンキャンパス2016（7/30、7/31、8/21）は、お天気に恵まれ3日間で2,062名の受験生、ご父母にご参加いただきました。さらに秋のオープンキャンパス（10/1）も209名の参加があり、春（3/26）305名を含めると年5回の開催で2,576名の参加者数となりました。

「キャンパスツアーガイド」や「在学生による個別相談コーナー」では在学生が活躍し、D棟実習施設や図書館等を案内しています。参加者からは「生の声」が聞け

ると大変好評でした。大阪薬科大学の代表として、明るく、元気に応対してもらいました。

そのほかに、受験生には「入試対策講座」、「模擬実験」、「卒業生の話」、「薬用植物園の見学」など、パンフレットでは伝わらない大阪薬科大学の魅力に触れていただきました。

参加者からのアンケート結果では、「キャンパスや実習施設がきれい!」、「ランチがおいしかった!」、と受験生、ご父母とも大変好評でした。

近年のオープンキャンパスは、土、日曜日に開催しており、ご父母の皆様にも多数参加いただき、受験生と一緒に楽しんでいただける大学のイベントとして定着しています。

### ●キャンパスツアー



オープンキャンパスの中で一番人気のイベントです。来場者のほとんどが参加します。

### ●体験イベント（模擬実験）



夏のオープンキャンパスでは薬学部の学びが体験できる体験イベント（模擬実験）を開催しました。

### ●薬用植物園見学会



谷口教授のご協力を得て開催し、約30名の参加がありました。

### ●入試説明会



政田学長からの挨拶の後、入試・進路・就職状況について説明しました。

### ●在学生による個別相談



教職員には、ちょっと聞きにくい学生生活などの質問も、在学生には気軽に聞けると受験生とご父母から好評でした。

### ●アンケート回収



参加者からのアンケートを回収し、貴重な意見を今後のオープンキャンパス運営に活かしています。

※春のオープンキャンパスは、平成29年3月20日（月・祝）を予定しています。

# 臨床教育・研究支援課

## ◆平成28年度公開教育講座を終えて

公開教育講座委員長 教授 永井 純也

大阪薬科大学の公開教育講座は「卒後教育講習会」として1983年に発足以来、本年で34年目にあたります。これは全国薬科大学の公開教育講座としては最も長い歴史を持つものの一つであり、参加者の総数も極めて多数にのぼっています。1992年からは「薬剤師の生涯教育」に焦点を絞るとともに、全国に先駆けて公益財団法人日本薬剤師研修センターとの共催を決定し、現在に至っております。

2005年度からは、「くすりの作用と副作用～薬物治療における安全管理のために～」を基本テーマに、医薬品の適正使用をめぐる様々な問題点を取り上げ、その解決策について討論してまいりました。本年度は、「乳がん」、「医薬品情報」および「血液がん」を各回のテーマとして取り上げ、以下の日程で年3回開催することができました。

さらに、昨年度に引き続き、数名のグループに分かれて行う演習・実習形式のサテライトセミナーを2回実施

いたしました。今年度は、ある医薬品の添付文書を題材として、添付文書に記載されている基礎的事項の理解を深め、添付文書を用いた情報提供のさらなる向上を目指していくセミナーを開催しました。セミナーでは活発な意見交換が行われ、参加者は添付文書に記載された内容の理解のみならず、医薬品情報を医療現場で有効に利用するためのスキル向上につながったものと期待しております。

上記の生涯教育関連事業を滞りなく実施することができましたのも、ひとえに多くの皆様方のご支援の賜であると心より感謝しております。ご協力いただいた方々には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。最後に本講座の開催にあたり、ご共催いただきました公益財団法人日本薬剤師研修センター、公益社団法人日本薬学会近畿支部、並びにご後援いただきました一般社団法人大阪府薬剤師会、大阪薬科大学同窓会に厚く御礼申し上げます。

## ◆公開教育講座（講演会）

開催場所 梅田スカイビルタワーウエスト36階 会議室L・R（各回共通）

### 第72回 平成28年5月28日（土）

#### ①「乳癌に対する薬物療法の現況」

大阪医科大学 乳腺・内分泌外科 科長 岩本充彦先生

#### ②「QOL 評価の基礎と応用」

立命館大学 生命科学部生命医科学科 教授 下妻晃二郎先生

### 第73回 平成28年7月16日（土）

#### ①「添付文書における相互作用情報の現状と課題」

大阪薬科大学 薬剤学研究室 教授 永井純也先生

#### ②「RMP の実践における臨床薬剤師の役割」

大阪薬科大学 臨床薬学教育研究センター 教授 中村敏明先生

### 第74回 平成28年11月19日（土）

#### ①「造血器悪性腫瘍領域における薬剤師の役割」

大阪薬科大学 臨床薬学教育研究センター 講師 内田まよこ先生

#### ②「進化する造血器悪性腫瘍の治療：リンパ系腫瘍を中心に」

九州大学病院 血液腫瘍内科 助教 加藤光次先生



### ◆公開教育講座(サテライトセミナー)

開催場所

大阪薬科大学サテライト研修室  
(三島センター薬局3階)(各回共通)

「一薬剤師のための添付文書マスター講座」  
一具体例を元に添付文書から基礎的な重要情報  
を読み解く !!

**第1回目** 平成28年10月23日(日)

題材とした添付文書：SGLT2 阻害剤

**第2回目** 平成28年11月27日(日)

題材とした添付文書：エベロリムス

### ◆大阪薬科大学研究シーズ集2016

本学では、教育・研究を通じて得られた研究成果を  
広く社会に還元し、「社会貢献」や「産学官連携」を  
推進することを目的として昨年に引き続き「大阪薬科  
大学研究シーズ集2016」を発刊しました。

シーズ集は本学教員の「研究分野」や「研究概要」、「産  
学連携の可能性」などについて、分かりやすく紹介し  
ており、製薬会社など多くの企業にも送付しています。

この研究シーズ集が、産学官連携活動をはじめ、新  
たな研究開発の一助となることを期待しています。

### ◆平成28年度実験動物慰霊祭

平成28年12月14日(水)12時20分よりD棟講  
堂において、平成28年度実験動物慰霊祭を執り行い  
ました。

慰霊祭は、教職員および学生等、参列者全員が黙祷  
を行った後、政田学長および永井動物関連研究施設運  
営委員長から挨拶と慰霊のことばが述べられました。

次いで、大喜多動物関連研究施設管理責任者から、  
実験動物飼育状況等について報告がありました。

最後に、私たちの教育・研究のために尊い命を捧げ  
てくれた実験動物の冥福を祈り、参列者全員が献花し  
ました。

# 学 生 課

## ◆交通安全講習会

本学は原則として単車での通学は事故の危険性や騒音による迷惑などの理由から禁止しています。しかし学生の皆さんの通学事情を考慮して、単車通学の申請があった場合に、条件を満たせば認める事になっています。

### 単車通学許可条件等



- 保証人の同意書の提出
- 免許証及び自賠責保険証の提示
- 騒音等の迷惑につながる改造がない
- 許可は1年ごとの更新、登録費として年額1,000円
- 違反者には厳しく対処します。  
無許可乗り入れ、学外駐車、騒音や危険運転などの迷惑行為には処罰規定に従って厳しく対処します。
- 交通事故の責任も迷惑行為の責任もあくまで自己責任です。
- 大学が開催する交通安全講習会の受講

毎年4月にD棟講堂で、高槻警察署のご協力を得て交通安全講習会を実施しています。



## トピック

大阪府自転車条例（平成28年4月1日施行）が制定されました。

### 条例の4本柱

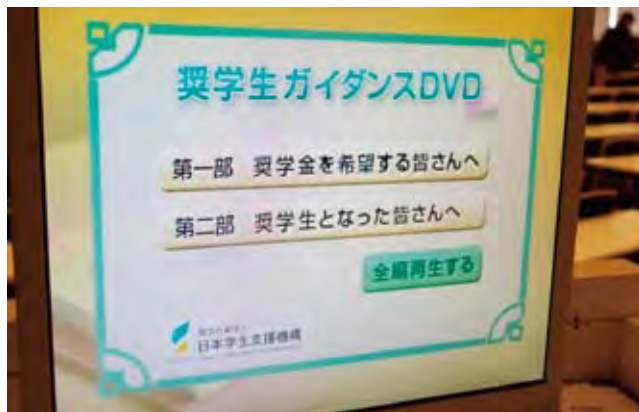
- 自転車保険の加入義務化（平成28年7月1日施行）
- 自転車の安全利用（自転車の点検及び整備、高齢者のヘルメット着用、反射機材の装着）
- 交通安全教育の充実
- 交通ルール・マナーの向上（自転車利用者の役割）

## ◆奨学金ガイダンス

大学生活をスムーズに進めて行くうえで、奨学金の問題は非常に重要です。

現在、大阪薬科大学では約4割の学生が日本学生支援機構、大学独自の制度等を通じて奨学金を給付・貸与されています。

本学は、本年大学独自の制度を改善し、大学院生への奨学金を新設し学部学生への給付型の制度も対象者を増加させるなど一層の充実を図っています。



## ◆人権講演会を終えて

本年度も人権委員会主催のもと、10月6日（木）13時から14時30分まで講堂で、NPOアカデミックハラスメントをなくすネットワーク代表理事 御輿（おごし）久美子先生を講師としてお迎えして、「アカデミックハラスメントとは？」という演題で講演会を開催することが出来ました。対象は1年次生と教職員です。ご講演を頂いた御輿先生は2011年・13年にもご講演頂いており、今回3回目の本学での講演でした。

講演は、「キャンパス・ハラスメントとは」から始まり、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント、アルコール・ハラスメントなどに触れ、アカデミック・ハラスメントに関する最近の処分事例を今年大学生になった1年次生に、詳しく紹介して頂きました。

また、アカデミック・ハラスメントを受けた場合、どうすれば止める事が出来るか、相手への伝え方の方法に関する説明がありました。

その後、大学でのセクシュアル・ハラスメントに関する、具体的な事例を11件挙げて、学生に丁寧に紹介頂きました。

その後、クイズ形式で、「これってセクハラ？」Q&

Aを行い、参加者全員参加で、セクハラを考えました。

さらに、セクシュアル・ハラスメントの被害を受けないために例えば

- ①嫌と言えない・言いにくい相手からの誘いは
- ②ハラスメントに発展しそうと気づくこと
- ③勇気と決断をもって、断る・逃げる

を挙げて、具体的な事例を用いて解説を行って頂きました。

また学生間で起きる可能性がある、デートDVやアルコール・ハラスメントに関しても具体的な事例を挙げて、アルハラとは何か、どうすれば防止出来るのかお話がありました。

本学は6年制で、未成年と成年がクラブ活動と一緒に活動する場面があり、自分自身がいつのまにか、被害者や加害者になっている場面が想定されるので、それぞれのハラスメントにおける具体的な事例を挙げての講演会は、学生生活を始めたばかりの1年次生に取って有意義な時間となり、今後の学生生活をおくる上の道標になったのではと思います。

講演後の学生のアンケートを読んでもと、例年より学生のコメントが多く記載されており、今回の講演の有意義さを深く感じ取る事が出来ました。御輿先生には心から感謝申し上げたいと思います。

## ◆父母懇談会

今年も10月8日（土）高松会場を皮切りに11月26日（土）梅田会場まで、合計5か所の会場において父母懇談会が開催されました。特に今年は、本学で父母懇談会を実施してから節目の10年目でありました。

各会場では、教務関係（進級、留年、薬学総合演習正規試験、薬剤師国家試験等）学生生活全般、キャリアサポート関係（就職率、内定率、インターンシップ等）の学内事情について大学側から現状に関する説明を行い、参加頂いたご父母の皆様から活発な質問、ご意見を頂きました。

会場によっては、今年4月に本学が同じ高槻市内にある大阪医科大学と法人合併した事が、今後の学生生活にどのような影響を与えるのか、薬学生の就職を取り巻く環境が変化しているが、大学としてどのような対応を行っているのか等、具体的な質問があり、参加したご父母の皆様は大学からの説明に熱心に耳を傾けておられました。



- 1 高松会場
- 2 広島会場
- 3 難波会場
- 4 本学会場
- 5 梅田会場



### ◆第51回大薬祭が開催されました

10月28日（金）～30日（日）の3日間、第51回大薬祭が開催されました。

大阪薬科大学は、ここまで先達の良き伝統を受け継ぎ学生が頑張って3日間の日程で大薬祭を実施しています。

今年も合計で、6,000名を超える来場者がありました。

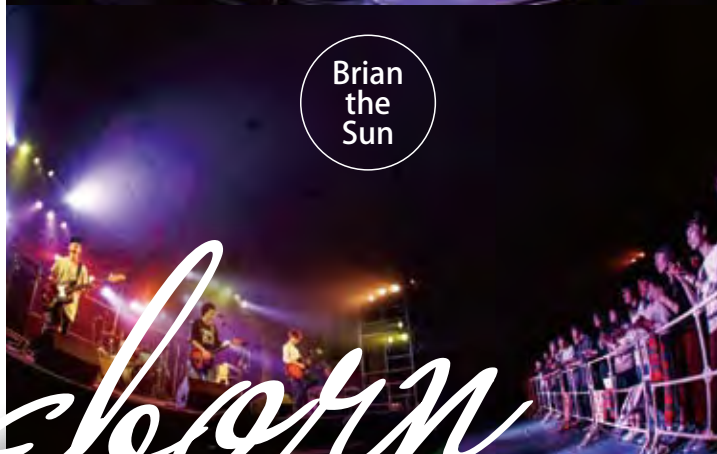
なかでも、29日に行われた、

大薬祭 アーティストライブ～Reborn!!～

【出演】BIGMAMA Brian the Sun

MC：落合健太郎

は、はじめてFM802とのタイタップ企画として実施され、大いに盛り上がりました。



Reborn

一つの区切りを終えて  
新たな一歩を踏み出す

# キャリアサポート課

## ◆インターンシップについて

皆さんは洋服を購入するとき、気に入った商品が見つかるまで何軒も店を回って探しませんか？ たとえ最初から気に入った商品があったとしても、着心地を確かめるために試着してから購入しませんか？

就職活動においてもこの点では同じことが言えます。楽しかった学生生活は“卒業”で終わります。就職活動は、その後の生活において大きな部分を占める“働く場”を決める重要な活動です。買い物のような欲求から始まるものではないだけに、自分の能力を発揮できる就職先にめぐり合うため早いうちから考え始めることが賢明です。また、最初から気に入っている就職先があっても、他の業種や職種も見た上で本当に自分の興味・関心・価値観に合っているかを確認することが大切です。

そこで、在学中に就業体験ができるインターンシップの活用をお勧めします。

インターンシップは大別すると2種類あります。一つ目は、大学が参加者の選考を行う「大学推薦インターンシップ」、二つ目は企業が参加者の選考を行う「公募制インターンシップ」です。

大学推薦インターンシップは主に5年次生を対象としていますが、受入先によっては低学年の参加も可能です。例年、5月下旬に案内しています。関心のある方はキャ

リアサポート課で確認してください。

公募制インターンシップは多くの企業が実施しています。就職情報サイトや企業ホームページで、内容、応募方法、選考課題等を公開し、参加者を選考します。就業体験と同時に本番の就職活動での選考の練習になるだけでなく、応募者も全国から集まりますので意識の高い他大学学生との交流もあります。

公務員に関心のある方にもインターンシップの機会があります。薬事衛生や食品衛生、環境衛生などの許認可や監視等を行う行政の仕事を体験することができます。

公募制インターンシップ（企業や公務員）の実施状況、内容や応募方法は実施先により異なります。気になる点はホームページで確認し、不明な点があれば直接問い合わせる、キャリアサポート課へ相談するなど、まずは一歩を踏み出しましょう。自分から動き出すことがとても重要です。

これまでの卒業生や内定者は、口を揃えて「可能ならインターンシップに参加した方が良い」と言います。インターンシップで何を学び、何を得るのか。自分で考え行動したからこそ、いままで気づかなかった新たな発見がそこにあります。

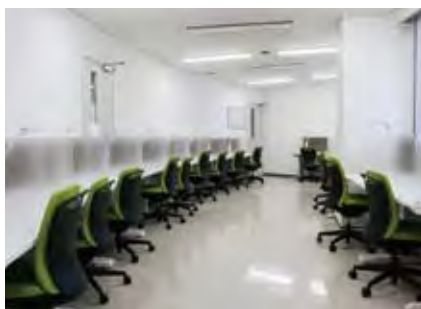
# 図書・情報課

## ◆グループ学習室とブラウジングコーナーの改修について

### ▶▶グループ学習室

平成28年8月にグループ学習室を改修しました。

従来のグループ学習室の座席数は現在とほぼ同じでしたが、長机だったこともあり参考書類を広げて一人で使用する学生が



多く、実際の利用者数は座席数の半数程度でした。改修後の机は、個人用机ですのでルールを守って、少しでも多くの方が利用できるように注意してください。

なお、併せて施設名称変更を行い、「グループ学習室」を「図書館自習室」に改めました。

### ▶▶ブラウジングコーナー

同じく図書館前のブラウジングコーナーを改修しました。

より多くの方が利用できるようにレイアウトを変更し、コピー機（3台）を現在の反対側の壁際に集約する



とともに個人用机を増設するなど、より良い環境で自習やグループ学習などができるようになりました。

また、掲示板を増設し、図書館広報、学内広報、イベント情報と大きく3つに区分して掲示していますので以前より掲示場所が分かりやすくなりました。

## ◆図書館の照明のLED化について

平成28年8月に図書館の照明を全てLEDに変更しました。照明がこれまでより非常に明るくなり勉強がはかどると図書館利用学生から好評を得ています。

## 薬 用 植 物 の 紹 介

## モモ (バラ科)

*Prunus persica* Batsch

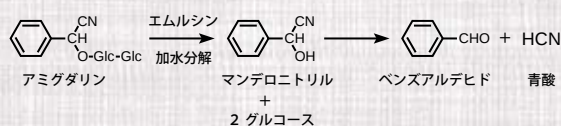
薬用植物園長 教授 谷口 雅彦

薬用植物園 技術職員 忍穂 陽介



モモは中国西北部原産の落葉小高木で、4月頃に花が咲き、7月から8月に実る。ヨーロッパへは紀元前4世紀ごろにシルクロードを通り、ペルシャ経由で伝わった。そのため、学名に*Persica*（ペルシャの）が使われている。日本では長崎県の縄文時代の遺跡から桃核が出土している。その頃の果実は、現在より小さいものであったが、その後大きな果実のものが大陸より伝来する。現在よく口にするモモは明治時代以降に輸入され、広まったものである。和名の由来には、「真実（まみ）」や、熟した実の色から「燃実（もえみ）」、多く実をつけることから「百（もも）」などとする諸説がある。

モモの種子をトウニンと呼び、漢方では、駆瘀血、通経、排膿、瀉下の目的で桂枝茯苓丸、桃核承気湯、甲字湯、潤腸湯、大黃牡丹皮湯などに配合される。主要成分として、青酸配糖体のアミグダリ



ンを含有しており、日本薬局方では、1.2%以上含むことと規定されている。このアミグダリンは、種子に含まれている酵素、エムルシンなどにより加水分解を受け、最終的にベンズアルデヒドと青酸に分解される。同じバラ科の青ウメにもアミグダリンを含んでおり、これを食べると中毒をおこすのは、胃で青酸が発生するためである。類似生薬としてキョウニン（アズノ種子）があり、主要成分としてアミグダリンを同様に含有しているが、漢方では、鎮咳、去痰の目的で麻杏甘石湯、麻黄湯、清肺湯などに配合される。

## 参考

第十七改正日本薬局方解説書（廣川書店）  
薬草カラー図鑑1（主婦の友社）  
生薬単（NTS）



モモの果実



生薬

編集  
後記

広報委員長 教授  
辻坊 裕

を紹介する企画を新たに取り入れました。OB・OGからのメッセージを参考にし、学生諸君のキャリア形成の一助になれば幸いです。また、学生部長、教

広報委員会のメンバーをはじめ、多くの方々にご協力いただき、無事に学報74号を発行することができました。皆様方、本当にありがとうございました。今号から各方面で活躍されているOB・OG

務部長、キャリアサポート部長と学生との座談会を企画しました。これが、今後の学生生活の更なる改善につながることを期待しております。

学報はこれまで教職員および学生に配布されてきましたが、本学の様子や動向を知っていただくために、今号からご父母の方々に送付させていただくことになりました。

これからも親しみのある学報をお届けしたいと考えていますので、読者の皆様方からのご意見・ご要望があればお聞かせください。

▶▶▶ご意見・ご要望等連絡先メールアドレス [kouhou@gly.oups.ac.jp](mailto:kouhou@gly.oups.ac.jp) メールタイトルに「学報」と明記してください。